日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（令和元年度）

機関番号	３２６０４

所属研究機関名称		大妻女子大学
研究代表者	部局	人間関係学部
	職	教授
	氏名	小川　浩

１．研究種目名　基盤研究(C)(一般)　　２．課題番号　19K02220

３．研究課題名　ジョブコーチの知識及びスキルの明確化と職能評価基準の開発に関する研究

４．補助事業期間　令和元年度～令和３年度

５．研究実績の概要

2019年度は、ジョブコーチ職能評価基準の要素を検討する上での基礎情報として、①米国のCertified Employment Support Professionalに関する研究、②我が国の職業リハビリテーション・就労支援専門職に関する先行研究の把握を行った。

①については、 ICI(University of Massachusetts Boston, Institute of Community Inclusion)において複数の研究者にインタビューを行うことにより、米国においても援助付き雇用の実践に携わる専門職の専門性は質的課題を抱えていること、そしてジョブコーチの職能団体であるAPSEが専門性向上を目的とした認定資格制度としてのCESPを立ち上げ現在3000人以上が取得していること等を確認し、CESP開発に関する文献資料を入手することができた。CESPで重視する知識や項目は、本研究が目的とする日本版職能評価チェックリストの応用可能な部分が多いことを確認できた。

②については、「ジョブコーチ」をキーワードに先行研究を把握したが、多くは実践事例の紹介や、制度等の課題に関する総論的内容のものが大半であり、ジョブコーチの専門性に焦点を当てた質的及び量的研究はあまりなされていないことが明らかになった。その中でも、厚生労働省が平成20年に実施した障害者の一般就労を支える人材に関する実態調査は、行政による実態把握を目的としたものであるが、現場の就労支援従事者に求められる知識やスキルを網羅しており、ジョブコーチ職能評価チェックリストを検討する上で、土台にすべき資料であると考えられた。

尚、当初予定したインタビュー調査は、2019年度の2～3月に実施予定であったため、新型コロナウイルスの蔓延による移動などの自粛のため、実施することが出来なかった。

６．キーワード

ジョブコーチ　援助付き雇用　Supported Employment　障害者雇用　障害者就労支援　専門性　人材養成

７．現在までの進捗状況

区分　(3) やや遅れている。

理由

米国のCESPに関する現状把握と資料収集は順調に行うことが出来た。また、先行研究に関わる文献研究も概ね順調であり、研究の基本的な方向性を見出すことができた。今後更に、研究方法や調査項目の検討に焦点を当てて、具体的な数本に絞って文献の検討を行っていく。

やや遅れていると判断する理由は、新型コロナウイルスの影響により、現場の訪問型ジョブコーチ及び企業在籍型ジョブコーチへのインタビュー調査を実施出来ていない為である。今後の社会状況を見ながら、インタビューによる質的調査を実施せず、主に文献研究によって調査項目の検討に進むかどうかを判断していきたい。

【研究代表者・所属研究機関控】

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

１版

８．今後の研究の推進方策

2020年度のステップは、日本版ジョブコーチ職能評価チェックリストに関わる項目の検討である。これまで収集した情報から、厚労省による障害者の一般就労を支える人材に関する実態調査を土台に、CESPの視点や項目、その他の関連する先行研究を合わせて、8月を目途に調査項目の完成を目指す。その間、インタビュー調査が可能であれば、当初よりも件数を縮小して実施する。

2019年度に行った文献研究の成果とCESPに関する情報収集の成果は、１つの論文としてまとめ、成果報告を行う。

９．次年度使用が生じた理由と使用計画

新型コロナウイルスの影響により、2020年2～3月に予定していたインタビュー調査を実施できず、旅費等を使用しなかったため。

１０．研究発表（令和元年度の研究成果）

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

１１．研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件／うち取得0件）

１２．科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

１３．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

－

１４．備考

－